

自分で自分の人生を切り拓いていく力

- きょうの一冊：北城恪太郎編『ニッポン「起業」学』日本実業出版社，2005
- この本は、本館 3F 企画コーナーにあります。【請求記号：335/Ki72】

IMD（国際経営開発研究所）が毎年発表している「世界競争力ランキング」の2007年版には、大変ショッキングな結果が示されていた。日本の「企業家精神（アントプレナーシップ）」は、主要60カ国・地域の中で53位にも落ちた。日本では、ベンチャー経営者をめざして起業する人が減っていて、学生の公務員志向は相変わらず根強い。一方、アメリカの大学ではもっとも優秀な学生たちの多くは起業をめざし、その次のレベルの学生はベンチャー企業への就職や経営コンサルタントをめざし、自信のない学生が公務員をめざすという。価値観は、日本の学生とまったく逆である。

私は本学への入学以来、将来は日中貿易関係の会社を作るという夢がある。しかしながら、経済学を学ぶにつれ、想像以上に困難が多く、夢をあきらめようとした。その時、北城恪太郎先生の「ニッポン起業学」に出会い、励まされたように意欲が高まったと感じた。自分のためにも、社会のためにも、もっと懸命に努力し、この夢を実現させたいと思う。

大学で学んだように、今の日本経済は、バブル崩壊後の長い停滞を経て、これからは少子高齢化、国と地方の膨大な財政赤字、地球環境保護の制約など、さまざまな要素を考えると、新たな成長には大きな原動力が必要となる。その原動力こそが「企業家精神」ではないかと考える。よく考えてみれば、トヨタ、ホンダ、ソニーなどの大企業でも、かつて大きな夢を抱えた起業家たちによって創業されたベンチャー企業から始まったのである。

本書には、企業家の育成や素質についてのアドバイスや、ベンチャー企業とは何か、今の日本経済にとって、ベンチャー企業の役割などを紹介している。その中でも最も参考になったのは、18名のベンチャー企業経営者のインタビューである。インタビューを通して、経営者の考えや創業の過程、ベンチャー企業の実態が目の前に浮かんでくるように感じる。

“自分で自分の人生を切り拓いていく力　それが一番大事である。”これこそが、ベンチャーの力である。起業による新事業の創造が社会全体の活性化になり、そして未来への展望につながる。ベンチャー企業の創造や、ベンチャー企業で働くということで、それ以外では実現できない人生設計や自己実現にもなるでしょう。この一冊の本との出会いは、私の今まで考えを打ち破った。今後の人生が変わるかもしれない程の手ごたえを得た。

（評者：平瀬 旭）